

(熊谷市) 記者クラブ情報

平成25年4月24日発表

担当課： 教育委員会社会教育課

事業の名称等

日本最初の女医「荻野吟子」没後100年記念フォーラム

1. 実施日時等 平成 25 年 6 月 23 日 午後1時30分から
平成 年 月 日まで
2. 会場・主催地 熊谷文化創造館 さくらめいと (太陽のホール)
3. 主催者・関係者
(1)団体名等 熊谷市・熊谷市教育委員会・財団法人自治総合センター
(2)代表者名 熊谷市長 富岡 清 TEL 048-524-1111
4. 事業内容 女史の没後100年記念事業の一環として下記の通りフォーラムを開催する。
 - 1 開会行事 (来賓：上田清司埼玉県知事ほかを予定)
 - 2 第一部：舞戸礼子さんによる一人芝居「荻野吟子抄 水場の女」
 - 3 第二部：パネルディスカッション「輝く女性の生き方」
コーディネーター 町 亜聖さん
パネリスト 文月 玲さん、金子 友紀さん、SHIORIさん
5. 目的・理由 郷土の偉人荻野吟子女史は、大正2 (1913) 年6月23日に逝去され、今年が没後100年に当たる。日本の公許女医第1号として、また、女性の地位向上にも尽くされた功績を称え、さらなる男女共同参画を推進するために開催する。
6. 経緯・経過 その人生の中で数々の苦難を乗り越え、日本最初の公許女医となった荻野吟子女史は、女性活動の先駆者でもあり、郷土の偉人として記念館を建設するなど、市もその顕彰に努めてきたほか、小中学校の道徳においても授業を実施している。
7. 影響・効果 今なお深い感動を与える女史の生涯について、さらに広く発信することで、女史の偉業を再確認し、次世代に語り継ぐきっかけを作り、市民にとっても女史への思いを新たにすることができる。
8. この事業の実施による特記事項・PRポイント
フォーラムの構成として一人芝居 (演劇) とパネルディスカッションという組み合わせは珍しい。
このほか、没後100年記念事業として、本庁舎や各行政センターを巡回するパネル展の開催、パネル展見学者およびフォーラム参加者向けに、リーフレットも作成する (6,000部)。
(1)県内の状況
ア. 県内で初めて イ. 県内で 番目
(2)他市が実施している事業に比べて本市の特色

※資料の有無 (有)

担当課 熊谷市教育委員会 社会教育課

担当者 木村・稲村

連絡先 TEL 048-524-1111 内線 389

shakaikyoiku@city.kumagaya.lg.jp

◎荻野吟子没後一〇〇年記念事業

日本最初の女医

「荻野吟子」

没後一〇〇年 記念フォーラム



6月23日(日) 13:30～ 熊谷文化創造館
入場無料 さくらめいと「太陽のホール」

内容

第一部 開会行事

一人芝居

「荻野吟子抄 水場の女」

出演：舞戸礼子さん



第二部

パネルディスカッション「輝く女性の生き方」

コーディネーター：町 亜聖さん(フリーアナウンサー)

パネリスト：文月 玲さん(バレエスタジオ主宰、元タカラジェンヌ)

金子 友紀さん(工房ゆうき主宰、人形師)

SHIORIさん(フードコーディネーター)

◎巡回パネル展

5月22日(水)～30日(木) 本庁舎 ※日曜日は休み

6月 3日(月)～ 7日(金) 妻沼行政センター

6月10日(月)～14日(金) 大里コミュニティセンター

6月17日(月)～21日(金) 江南行政センター

時間：9時～17時、各会場とも最終日は15時まで

◎お申込み

氏名・住所・電話番号・人数(5人まで)を窓口または電話で下記へ。
先着順に入場整理券をお送りします。

熊谷市教育委員会社会教育課(市役所6階)

Tel 048-524-1111 内線389

主催：熊谷市・熊谷市教育委員会・(財)自治総合センター 後援：総務省・埼玉県・埼玉県教育委員会・熊谷市医師会 協力：荻野吟子史跡保存会・吟子の会・阿うんの会

このフォーラムは全国モーターボート競走施行者協議会からの拠出金を受けて実施するものです。

荻野吟子の歩み

- | | | | |
|--------------|---|--------------|---|
| 嘉永4年 (1851) | 3月3日俵瀬村(現熊谷市)に父綾三郎、母嘉与の五女ぎんとして出生。 | 明治19年 (1886) | 下谷黒門町に移転。本郷教会にて洗礼、キリスト教婦人矯風会に参加し、風俗部長となる。 |
| 慶応4年 (1868) | 上川上村(現熊谷市)名主稲村貫一郎と結婚。(18歳)
画家奥原晴湖と出会う。 | 明治23年 (1890) | 志方之善と結婚。(40歳) |
| (この頃) | 両宜塾に入塾。松本万年に師事。 | 明治24年 (1891) | 志方之善、キリスト教徒による理想郷建設を目指し北海道へ渡る。 |
| 明治3年 (1870) | 協議離婚し、大学東校病院に入院。女医を志す。 | (この頃) | 吟子も渡道。 |
| 明治6年 (1873) | 父綾三郎死去の後、国学者井上頼因に入門。 | 明治30年 (1897) | 北海道瀬棚(現せたな町)に医院を開業。 |
| 明治7年 (1874) | 内藤満寿子の招きにより甲府へ赴き助教となる。 | 明治36年 (1903) | 志方之善、同志社に再入学。 |
| 明治8年 (1875) | 東京女子師範学校入学。12年7月卒業。(29歳) | 明治38年 (1905) | 志方之善、瀬棚で病死。 |
| 明治12年 (1879) | 私立医学校好寿院入学。15年卒業。 | 明治41年 (1908) | 北海道を引き揚げ、東京本所区新小梅町に医院を開業。 |
| 明治17年 (1884) | 内務省長与專斎衛生局長に医術開業試験の女子受験許可を陳情。医術開業試験を許可され受験、前期試験にただ一人合格。 | 明治45年 (1912) | 志方籍をはなれ、荻野家に復籍。 |
| 明治18年 (1885) | 3月、後期試験に合格。日本の公許女医第1号となる。(35歳)本郷区湯島三組町に開業。 | 大正2年 (1913) | 6月23日病氣にて死去、享年63歳。 |

舞戸 礼子さん

女優

プロフィール

本名、塩原典子。山形県鶴岡市出身。15歳よりNHK鶴岡放送劇団にて発声及び演技の基礎を学び、NHKアクターズゼミナール10期卒業。1985年11月劇団Q創立。主な出演は、新橋演舞場において名取裕子主演「吉原炎上」、「女系家

族」、田村正和主演「そなたもおなじ野の花か」、劇団若獅子公演等数多くに上る。

15年ほど前から、日本公許女医第1号荻野吟子の一人芝居をライフワークとして公演中。2000年11月、妻沼町文化芸術賞受賞。

町 亜聖さん

フリーアナウンサー

プロフィール

1995年に日本テレビアナウンサーとして入社。その後、報道キャスターを経て2011年にフリーアナウンサーに転進。

脳障害のため車椅子生活を送っていた母と過ごした10年の日々、そして母と父をがんて亡くした経験をまとめた「十八歳からの十年介護」を出版。医療と介護を生涯のテーマに取材を続ける。

文月 玲さん

バレエスタジオ主宰、元タカラジェンヌ

プロフィール

市内河原町出身。間瀬バレエスタジオにてバレエを始める。その後、牧阿佐美バレエ団児童バレエに通う。埼玉県立熊谷女子高等学校1年修了の後、宝塚音楽学校に合格。

同校卒業後、宝塚歌劇団雪組男役として活躍。

退団後、地元に戻り文月玲バレエスタジオを開校。これまでに8名のタカラジェンヌを送り出す。

金子 友紀さん

工房ゆうき主宰

プロフィール

節句人形工芸士、「埼第一号認定・金子重治」を父に持ち、幼い頃より木目込人形に囲まれて育つ。

現在は、女流人形作家「ゆうき」として、木目込人形の素晴らしさを伝えるべく、数々のイベントなどに参加し多方面で活躍中。2009年には34歳にて伝統工芸士に認定されている。平成24年度 第8回さいたま輝き荻野吟子賞受賞。

SHIORIさん

フードコーディネーター

プロフィール

短大卒業後、料理家のアシスタントを経て独立。2007年「作ってあげたい彼ごはん」出版。

「若い女の子にもっと料理を楽しんでもらいたい」をモットーに活躍。

最近は、ヨーロッパやアジアなど短期での海外料理留学にも力を注いでいる。最新版「SHIORIレシピseasons.」が発売中。熊谷市親善大使。